

2024年 社長年頭挨拶（要旨）

新年にあたり、ご挨拶申し上げます。初めに、1月1日に発生しました「令和6年能登半島地震」により犠牲になられた方々に対しまして、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被害にあわれた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

1. 昨年の振り返り

コロナ禍が明け4年ぶりに活気が戻ってきた1年となりました。一方、特殊鋼鋼材の一部長さ公差外れの問題では、多くのお客さまや関係者の皆さまにご心配、ご迷惑をおかけしました。この事実を真摯に反省し、二度とこのような事が起きないように、全社を挙げて誠心誠意取り組んでまいります。

2. 取り巻く経営環境～外部リスクへの対応～

当社を取り巻く経営環境は依然、激動の只中にあり、様々なリスクが高まっています。そんな環境下でも持続的に社会のお役に立ち続けるには、予期せぬ事態に対応できる強靱なサプライチェーンや体質の再構築、気候変動を始めとした環境危機への具体的な行動、事業を通じた社会課題解決に取り組んでいかねばなりません。

社会の変化でお客さまのニーズも変化します。お客さまが見据える未来の実現に向け、我々のどんな素材・部品でお役に立てるかを真剣に考え、ニーズ、変化を日々キャッチしながら、迅速な意思決定と素早いアクションにつなげていきます。

3. 2024年の取り組み

新中期経営計画では、変化に耐え得る強靱な経営体質にすべく、全社を挙げて損益分岐点引き下げに取り組みながら、営業・開発一体の事業拡大と、それに基づくリソースの最適配分により、両利きの経営を徹底してまいります。

これらを従来以上に迅速な意思決定で行い、経営環境の急変に適応しながら、2030年ビジョン実現に向けた成長軌道への回帰を目指します。そのためにも、創業期の精神に立ち戻り、今まで以上に“真っ当な”取り組みを全社で実行していきます。“真っ当な”とは、課題に対し現地現物で真正面から向き合い、やれない理由や言い訳で逃げず、すべての人に嘘をつかずに、常に全力でやり抜く、ということです。

（1）真っ当な「現状把握」

現状を見える化し、「正常」を設定することで、「異常」「変化」「足りないもの」に素早く気づくしくみを再構築し、リアルタイムでアクションを取れる体制を作ります。

（2）真っ当な「判断」

経営理念とA i c h i W a yをベースに、常にお客さまを第一とした真っ当な判断をするため、メンバーはもちろん、リーダーはメンバーの声に自ら耳を傾け、自らの目による現地現物での確認を徹底していきます。

（3）真っ当に「実行」

一人ひとりが職務を全うするプロとして、ルールを守り、お客さまが真に望むことに向き合い、真の問題解決に取り組んでいきます。

4. 社員の皆さんにお願いしたいこと

今我々は世界情勢の急変に加えて、自動車産業も100年に一度という大変革期を迎えている厳しい経営環境の中にいます。お客さまのお役に立ち続けるため、日々レベルアップを積み重ね、新たな価値を創造していくことが大切です。

変化を正しく認識しつつ健全な危機感を持ち、一人ひとりが自身の仕事のプロとして「世のため、人のため」「仲間のため」真にお役に立つ誠実なプロ集団をもう一度目指していきましょう。